

SAKURA

Since 2013



Vol.57
11・12月号

私は、「わたし」に会いにゆく。さくらプラザで、逢いましょう。



©Ayane Shindo

高橋 龍之介

可能性を秘めた表現力

== INDEX ==

Pick Up Artist

名曲サロンシリーズ Vol.34

高橋 龍之介 サクソフォンコンサート出演

高橋 龍之介

さくらプラザ 自主事業レポート

さくらプラザ オープンデー 2022 真夏のこども探検隊

連載

子ども × 文化芸術 × 私たちの暮らす街

WA! 育つ! 育てる! / 小田 直弥

戸塚でたのしむミュージック♪ / 山添 薫

誰も真似てはならぬ!? 鈴木啓資の

⑧ さくらプラザコンサート企画案 / 鈴木 啓資

人は皆 背中で語る… 見返戸塚人



サクソフォン奏者
たかはし りゅうのすけ
高橋 龍之介

～サクソフォンを通して音楽をずっと好きでいて欲しい～



名曲サロン シリーズでは初めてのサクソフォン公演です。さくらプラザの練習室をご利用されていた高橋さんのサクソフォンの音色に引き込まれてお声を掛けたことがきっかけで今回の出演が実現いたしました。

2019年にデビューリサイタルを果たし、現在ソロや室内楽などで活躍中の期待の若手奏者、高橋 龍之介さんの魅力をインタビューで紐解きます！

—サクソフォンは音域の異なる楽器で種類が分かれています、高橋さんはどのサクソフォンを演奏されるのですか？

高橋 龍之介 (以下、略)—僕が持っている楽器は「ソプラノサクソフォン」「アルトサクソフォン」「テナーサクソフォン」です。この3つの他には「バリトンサクソフォン」も主流ですね。サクソフォン奏者は皆さん何種類かお持ちなのではないでしょうか？演奏するスタイルやジャンルなどで持ち替えたりもします。ソロで演奏するのか、室内楽で演奏するのか、クラシックやジャズ、吹奏楽やポップスなど、いろんなシーンで活躍する楽器なので、さまざまな表現ができます。僕は普段クラシックを演奏する機会が多く、特に室内楽などのアンサンブルで演奏するときは「アルト」や「テナー」のサクソフォンを使用することが多いですね。合唱と同じで、楽器のアンサンブルでもアルトやテナーは内声部を受け持つ音域で、メロディーラインではなく、和音の音を補ったり、リズムを刻んだりといった、陰から全体を支える役を担当しています。

人それぞれ得意とする楽器があったりもするので、アンサンブルのメンバーによっては僕もソプラノサクソフォンを吹いたりもします。なので、サクソフォン奏者は基本どの音域の楽器も演奏できるように練習しています。

—それぞれの楽器の音色の特徴や魅力を教えてください。

先ほどもお話しした通り、合唱の編成と同じで、ソプラノサクソフォンは音域が高く、メロディーを演奏するのに一番ぴったりですね。まさに“華やか”な音色がします。アルトサクソフォンやテナーサクソフォンは、人間の声の高さに似ています。なので、耳なじみが良いというか、人に伝わりやすい音域ではありますね。テナーサクソフォンでメロディーを演奏すると少し“渋さ”があり、アルトサクソフォンは“艶やか”な印象になりますね。バリトンサクソフォンは基本的には伴奏部分を演奏することが多いです。その音色は“あたたか”で、まろやか”です。どの楽器にも良さがあり、魅力的です。



—サクソフォンを始めたきっかけは何ですか？

小学生の頃に学校で金管楽器を演奏していましたが、地域の音楽祭が毎年10月にあり、そこで演奏している中学生や高校生のサクソフォンの音を初めて聴いたときに、金管楽器のような見目をしているのに、演奏するとやさしく柔らかい音色がするサクソフォンの魅力に自分の興味がびったりハマってしまったことがきっかけです。小学6年生の時だったと思うのですが、その時にヤマハの音楽教室に通ってサクソフォンを習い始めました。

金管楽器を演奏した時は友達に誘われて始めましたが、サクソフォンに関しては自分からやりたい!と思って始めました。

—その頃から演奏者になりたい、と思っていたのですか？

そうではなく、小学生の頃は「習い事」としてでしたね。音楽教室もグループレッスンで、大人の方2人と同級生の小学生が1人、そして僕の4人でレッスンを受けていました。中学生になってからは吹奏楽部で演奏していましたが、その頃特にプロになりたい、とは思っていませんでした。楽しくて演奏していたという感じです。高校の頃は吹奏楽部には入らなかったんですよ。入部希望をする時期



↑左から、テナー、アルト、ソプラノ

が遅くて、ファゴットしか残っていないと言われてしまって。いろいろと悩んだのですが、サクソフォンが吹き上がったので、入部せずに帰宅部でした……(笑)。進路を決めなくてはいけない時期でもあったので、僕の場合は時間がたくさんとれる帰宅部でも良かったと思っています。中学生の頃に吹奏楽で合奏を教えに来ていた先生にプロのサクソフォン奏者を紹介していただき個人レッスンに通い始めました。その頃から、「音楽の道に進みたい」と考えるようになりました。初めは両親には反対されていました。思っている以上にレッスン代や楽器のメンテナンス、楽譜などに費用が必要になってくるので、慎重に考えて決めてほしかったのかもしれない。でも僕はどうしても音楽大学に通いたかったので、高校の頃はアルバイトをしてすべてまかなっていました。今日はサクソフォン、明日はピアノ、ソルフェージュ、明後日はアルバイト、時間を見つけては練習、みたいな生活だったので忙しかったです(笑)。でも、今振り返ると音楽にとっても集中できた時期だったと思っています。そんな姿をみて、両親も次第に認めてくれて、晴れて音楽の道に進むことができました。

—現在は後進の育成にも力を入れていらっしゃるとのことでしたね。心掛けていることはありますか？

演奏活動の他に、教えることもしています。それぞれ吹奏楽部に教えに行ったりもしますし、個人的にレッスンをすることもあります。趣味の方もいれば、コンクールが近いからみっちり指導してほしい、という方もいて、様々なのですが、皆さん本当に一生懸命習得しようとする熱意が伝わってきます。

もちろん、上手く演奏できるようにしてあげたいという想いが1番ですが、サクソフォンを通して“音楽”をずっと好きでいて欲しいという気持ちがあって、「今、やらなきゃいけないからやる」ではなく、生涯を通してサクソフォン、また音楽を学びたいと思ってもらえるようなレッスンを心掛けています。

—共演者の柳川 瑞季さんはどのようなピアニストですか？

柳川さんとは大学4年生の時に知り合いまして、そこから一緒に過ごさせていただくことが増えました。お住まいが横浜なので、さくらプラザで公演をするならぜひ柳川さんをお願いしようと決めました。彼女は作曲家なのですが、ピアノがとても堪能で、「天才」と言っても過言ではないですね。本人がアレンジした楽曲はすべて彼女の頭の中に楽譜が入っているので、ピアノパートの譜面がないんです。なので、ピアノ以外のパート譜だけを見て伴奏を弾いて……。異次元の才能ですよ。僕もまだ2人での合わせの練習をしていないので、これから作り上げていくのが楽しみです。

—今後の展望と、戸塚での公演に向けて、メッセージをお願いします！

クラシックやジャズ、ポップスなど、さまざまなジャンルにおいて登場するサクソフォンは、それだけ表現の幅も広く、音色も豊かなので、いろんな可能性を秘めていると思っています。そこが魅力でもありますので、ソロはもちろん、ピアノとのデュオ、サクソフォンだけの編成で組んだアンサンブルや、別の楽器とのアンサンブルなど、いろんな形でサクソフォンの音色の良さを伝えていきたいと思っています。そして、サクソフォンといえば“ジャズ”や“ポップス”の演奏を思い浮かべる方が多いと思うのですが、クラシックとしてのサクソフォンの演奏をより多くの方に知っていただけたら良いなと思っています。

さくらプラザでの名曲サロン シリーズの公演でも、サクソフォンのために書かれたクラシックの楽曲をプログラムに取り入れていくつもりです。誰もが知っている楽曲はもちろんですが、知名度が低

い曲にもまだまだ良い曲はたくさんあります。今回の公演で、クラシックでもサクソフォンの演奏って素敵だなということを知ってもらえたら最高ですね。そう思ってもらえるように頑張ります。

(取材・構成／山上 由布子)



高橋 龍之介 (サクソフォン) Ryunosuke Takahashi

神奈川県出身。昭和音楽大学音楽学部器楽科を特別賞を受賞し首席で卒業。翌年同大学研究科を修了。在学中、コンチェルト定期演奏会にソリストとして推薦される。卒業演奏会、読売新聞社主催第84回読売新人演奏会、ヤマハ管楽器新人演奏会に出演。第12回ジュニア・サクソフォンコンクール3位入賞。第25回大田市大曲新人音楽祭コンクールにて優秀賞、並びにグランプリを受賞し受賞者記念演奏会に出演。第20回松方ホール音楽賞木管部門、本選出場。第6回秋吉台音楽コンクール、サクソフォン部門入選。浜松国際管楽器アカデミーにおいて講師推薦によるプレミアムコンサートに2度出演。東京芸術劇場による演奏家育成事業「芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミー(現：芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド)」のオーディションに合格し、第3期生として研鑽を積んだ。2019年フィリアホールにてリサイタルデビューを果たし現在はソロ、室内楽、在京オーケストラ、吹奏楽の公演や録音、学校でのアウトリーチなど幅広く活動を行う。サクソフォンを河西麻希、池上政人、福本信太郎、有村純親の各氏に、室内楽を有村純親、榮村正吾、松原孝政、福本信太郎、大森義基、武藤賢一郎の各氏に師事。Christian Wirth、Miha Rogina、ハバネラ・サクソフォン四重奏団のマスタークラスを受講。The Quartet "Oiseaux"アルト・サクソフォン奏者。

柳川 瑞季 (ピアノ) Mizuki Yanagawa

1991年生まれ。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。同大学大学院音楽研究科音楽文化学ソルフェージュ研究分野(ピアノ)修了。第22回かながわ音楽コンクール ユースピアノ部門 神奈川新聞社社長賞(準大賞)、コンチェルト賞。同年、神奈川フィルハーモニー管弦楽団と協奏曲で共演。第2回洗足現代音楽作曲コンクールA部門(オーケストラ曲)第1位、併せて洗足賞(聴衆賞)受賞。これまでに作曲を久行敏彦、佐藤眞の各氏に、ソルフェージュを照屋正樹、デシュネ、ローランの各氏に、ピアノを佐藤俊、青柳晋の各氏に師事。現在、桐朋学園大学音楽学部、洗足学園音楽大学、東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、各非常勤講師。日本現代音楽協会ユース会員。日本ソルフェージュ研究協議会会員。

名曲サロンシリーズVol.34
高橋 龍之介 サクソフォンコンサート
～サクソフォンとピアノが織りなす名曲～
11/14(月)①11:30開演②14:30開演
会場：リハーサル室
出演：高橋 龍之介 (サクソフォン)、
柳川 瑞季 (ピアノ)

※詳細は裏表紙をご覧ください。

↑公演中へ

真夏の こども探検隊

～不思議な音色の国～

2022 8月20日 土 9:45～15:30

今年のオープンデーは「横浜音楽祭2022」の開催に伴い「不思議な音色の国」をテーマに聴いたことも見たこともない楽器や音色を集め、【音楽の不思議】を発見する1日をお届けいたしました。当日は延べ956名の方にお越しいただき、大盛り上がり!地域のマスコットキャラクターも遊びに来てくれました。本誌の連載担当をしている3名のアーティストに実際にイベントで出会えたり、地域の子どもの作品で会場を色鮮やかに飾ったり、見えない部分でも多くの企業や団体に支えていただき、地域の皆様とともに「さくらプラザオープンデー」を作り上げることができました。

イラストレーション/小川 かなこ

毎年おなじみの探検隊。今年も「不思議な音色」を発見だ!

オープニング演奏 電子楽器マトリヨミンで始まるよ!

触らなくても?音が鳴る国 ～電子楽器 マトリヨミン～



©Taira Tairadate

出演:マトリヨミンアンサンブルMMM (檜垣 紀子 他) 会場:ステンドグラス前(4階)

可愛い形をした電子楽器マトリヨミン!そんなマトリヨミンの魅力が詰まったプログラムをお届けしました。オープニングでは「ウナシー」と「はまりん」も登場してスタート!マトリヨミンの不思議な音色が会場に流れた時、夏休みの忘れられない1日が始まりました。演奏だけでなく、実際にマトリヨミンの音を出す楽器体験コーナーもありました。

糸の国 ストリングラフィコンサート ～糸電話が楽器に!?～

ファイナル演奏 3Fギャラリーで待ってるよ!

出演:ストリングラフィ・アンサンブル (水嶋 一江, KIKU, 篠原 もとこ, 美音) 会場:ギャラリー (3階)

絹糸と紙コップを使った楽器「ストリングラフィ」をギャラリーの広い空間に張り巡らせ、ギャラリー全体が楽器になってしまったかのような、そんな空間での演奏を楽しみました。ある時はオーケストラ、ある時は動物の鳴き声など、絹糸から紡ぎ出される音色は想像以上にたくさんの種類があり、子ども達もどうしてこんな音が鳴るのかな?と不思議な音色に興味津々。

体験コーナーでは実際に自分で音を出してみたり、さらには演奏に参加したり、とたくさんの経験ができました。

ファイナル演奏はウナシーとはまりんと一緒に!



©Taira Tairadate



©Taira Tairadate

オープンデーの最後はストリングラフィで「小さな世界」を演奏して幕を閉じました。予約不要で誰でも自由に鑑賞可能であったため、通りすがりの方も足を止めて楽しんでくださいました。

連載 P.6 88鍵の国 ～ピアノで奏でる音色の不思議～

出演:鈴木 啓資(ピアニスト) 会場:リハーサル室(4階)

本誌で連載を担当中のピアニストによる、ピアノの不思議を大解剖する解説付きのコンサート。88鍵の鍵盤を使って、どのように音を鳴らしているのか、演奏方法でどんな違いが生まれるのか、また、作曲者の音の組み合わせでどのように曲の雰囲気が変わるのか、などを分かりやすく教えてくださいました。グランドピアノの中身をのぞいたり、楽器の構造も知ることができました。さまざまな時代や国の作曲家の作品の演奏も聴けて、ピアノの魅力に引き込まれる45分でした。



©Taira Tairadate

連載 P.6 音色を聴いて楽しくなる国 ～不思議な親子リトミック～

出演:山添 薫(リトミック講師) 会場:練習室4(4階)

音の妖精「ふわり」を探しにいく、物語仕立てのリトミックをお届けしました!参加者の皆様は色々な楽器の音色やリズムに合わせて、歩いたり、ジャンプしたり……時には変身したりと、それぞれの想像力を活かしながら物語の世界を冒険♪物語の終わりにはみんなが妖精「ふわり」と出会い、最後は大波の中で一緒に遊ぶことができました。“不思議な音色”と音楽の世界を身体全体でお楽しみいただきました。



©Taira Tairadate

戸塚区の子どもたちによる作品も展示したよ!



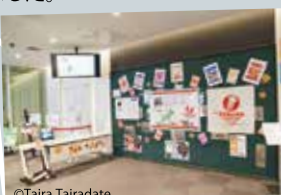
たからの国 ～クイズチャレンジ～

協賛:宝製菓株式会社

4階の黒板前では戸塚区内にある企業、宝製菓株式会社のご紹介コーナーと、宝製菓に関するクイズチャレンジを行いました。参加すると宝製菓のお菓子をプレゼント。また、全問正解した方はウナシーカードがもらえ、楽しみながら答えを考える親子の姿が多く見られました。



美味しいお菓子を大喜び!



©Taira Tairadate



何やら演奏中!?



©Taira Tairadate

横浜市の交通局のマスコットキャラクターはまりん

戸塚区のマスコットキャラクター ウナシー

ポリビアの楽器 レインスティック
どんな音がするかな…?



©Taira Tairadate

連載 P.6 音色の不思議を見つける国 ～世界の珍しい楽器を鳴らしてみよう～

監修:小田 直弥(弘前大学教育学部音楽教育講座助教)

会場:練習室前スペース(4階)

さまざまな国の民族楽器を集め、誰でも自由に体験できるスペースを作りました。音の鳴らし方や、音の大きさ、響きの長さ、など、自分で音の不思議を見つける体験を楽しんでもらうことができました。初めて見る楽器ばかりの中、家族と一緒に考えながら音を出している子どもたちの姿が印象的でした。

なんの楽器だろう!?



インドネシアの楽器ギロ



チベットの楽器 シンキングボウル



ギニアの楽器 ミニジャンベ

©Taira Tairadate

イベント終了後、ウナシーの階段アートの前で記念撮影♪



©Taira Tairadate

特別展示 不思議な音色ってどんなかな?

「造形教室むむていあ」「バリアフリー造形教室みんなのアトリエ」の皆様による「不思議な音色」をテーマにした力作を展示いたしました!それぞれの考える「不思議な音色」が形になり、とてもユニークな作品となりました。また、会場には地域の施設の子どもたちによる作品も展示!音楽だけではなく音色の感じ方をご体験いただけました。



造形教室むむていあの皆様による作品



バリアフリー造形教室みんなのアトリエの皆様による作品

その他 協賛・協力企業様



エステ株式会社

館内の消毒・抗菌コーティングのために「Dr.CLEAN」をご提供いただきました!



102cafe

戸塚区総合庁舎3階にあるレストラン「102Cafe」よりご協力いただき、嬉しい割引特典がありました。



「不思議な音色」をテーマに新しい発見や出会いをさくらプラザで体験してもらうことができました。「戸塚区のアートステーション」として、これからも多くの方に「心に残るアート体験」をお届けして参ります。

子どもは生まれてから、たくさんの音と触れ合っています。それはおもちゃのガラガラ、雨の音や鳥の鳴き声、お母さんの声も高きや速さ、リズム、音色の違いがあるために子どもにとっては楽器のような個性ある音に聴こえるかもしれません。子どもはこうした音との触れ合いから、私たちの世界にはたくさんの個性的な音があることやそれらがなんらかの意味を伴って使用されることがあることを知っていきます。子どもの音への見方をさらに広げるツールとして楽器は有効です。楽器には私たち人間と音との関わりの歴史が詰まっています。

8月20日に開催されたさくらプラザのオープンデーにて、「音色の不思議を見つめる国々世界の珍しい楽器を鳴らしてみよう」と題するコーナーを設けていただきました。そこには2歳〜6歳の子どもたちが手にするのちょうどよい大きさの楽器を6つ準備しました。インドネシアからのギロ、エジプトからのジル、スペインからの

カスターネット、ギニアからのミニジャンベ、チベットからのシンギングボウル、ポリビアからのレインスティックです。真鍮や木といった楽器の素材が音と関係していること、同じ楽器でも鳴らし方によって音が変ること、何度か音を鳴らしては耳を近づけてジーンと音を聴く姿もありました。どうしてこの素材を使ったのかと考える子どももいましたし、「どんな時に使う楽器なのか？」という保護者の問いかけに真剣に考える子どもの姿もありました。古代エジプトのヒエログリフが彫られているジルや、不思議な顔が彫られているレインスティックから楽器の生まれた国の文化を想像したり……。子どもたちは楽器のもつ音や用途、デザインから問いを見つけ、自分なりに考えをめぐらすことで、新しい音への見方を開拓していくようでした。

子ども × 文化芸術 × 私たちの暮らす街

WA!育つ!育てる!

小田直弥

【ふむふむ、WA!】と驚くような、【輪】になって繋がっていくような……、文化芸術と街の視点で【子育て】を考える連載。
街・家庭で育つ子どもたちを大人はどう育てていくか。

Vol.4 幼児と親、地域をつなぐ音楽イベント

楽しい時間が生まれます。音楽イベントと言えは演奏会ですが、親子や地域をつなぐ目的であれば、必ずしも、音楽イベントは演奏会だけでもないようです。

演奏などの技を見せることもしな

カスターネット、ギニアからのミニジャンベ、チベットからのシンギングボウル、ポリビアからのレインスティックです。真鍮や木といった楽器の素材が音と関係していること、同じ楽器でも鳴らし方によって音が変ること、何度か音を鳴らしては耳を近づけてジーンと音を聴く姿もありました。どうしてこの素材を使ったのかと考える子どももいましたし、「どんな時に使う楽器なのか？」という保護者の問いかけに真剣に考える子どもの姿もありました。古代エジプトのヒエログリフが彫られているジルや、不思議な顔が彫られているレインスティックから楽器の生まれた国の文化を想像したり……。子どもたちは楽器のもつ音や用途、デザインから問いを見つけ、自分なりに考えをめぐらすことで、新しい音への見方を開拓していくようでした。



小田直弥
弘前大学教育学部音楽教育講座助教、東京学芸大学未来研究所学術フェロー、ヤマハ株式会社によるエジプト国初等教育への日本型音楽教育導入事業(非認知能力の測定手法検討)に参加、『きかんしゃトーマスでつなげる非認知能力子育てブック』(共著、東京書籍)。



©Taira Tairadate

戸塚でたのしむミュージック

Vol.4 『さくらプラザ オープンデー体験記』

今回は8月20日に行われた、さくらプラザオープンデーの様子をご紹介します。

私が担当したのは、練習室4での“不思議な音色”をテーマにしたリトミック。テーマをもとに、子どもたちと一緒に作り上げていくストーリー仕立てのリトミックは、構想を練るのも楽しかったのですが、私自身もとても刺激になりました。感染対策のため子どもたちは身体的な接触ができなかったのですが、音を聴くという共通の動作を積み重ねていくことで、どんどん音に没頭していき一体感を生み出すことができました。子どもたちの「次は何?」という期待や、キラキラした瞳全てが眩しくて、音への関心の高さに驚きました。参加された年齢も様々で、個性が光ったり、みんなが1つになったりと、どの回とも全て異なるストーリーが完成したのが印象的でした。

子どもたちは音が変わることに気づく瞬間があり、それに合わせて筋肉の神経をストップさせて止まり、耳を傾けていました。赤ちゃんもご参加くださったのですが、足や顔をバタバタと動かし、反応していました。その反応はその子1人1人の大切な個性です。リトミックでは「こうして動きなさい」と指示された動きがない分、音楽を感じたままに体を動かします。ストーリー後半の大波の場面では「ぎ、ぶーん」と自然と言葉が発せられたり、1歳間もない子が



©Taira Tairadate

「ふわり、ふわり」と動きに合わせて歌っていたりしていたのです！他にも、蛙になったり、穴ぼこに落ちたり、穴ぼこに落ちないように足を広げて踏ん張っていたり……。その子の下には本当に深い穴が開いているように見えました。子どもたちの想像力ってやっぱりすごいですね！

今回は“不思議な”世界観を大切にしたいので、見本になるような絵やぬいぐるみなどはあえて置かず音への感性を高めるといふ密かな試みもありましたが、子どもたちの感性の素晴らしさにただただ感動いたしました。様々な楽器の音にも触れて、これからのお子さまたちの刺激の1つになれば嬉しいです。子どもたちの見ている色や音、感じていることは大人が思っているよりも遥かに壮大なものなかもしれません。違うからこそ、楽しい世界。もっともっと違うことを楽しめる世の中になっていきますように。30分という短い時間の中、初めましての人同士がこんなにも一体になれるリトミック。ますます好きになりました！戸塚には、今回のように子どもと音楽を繋げてくれる場所が増えてきたと感じます。これからもどんどんこのような場所が広がっていきますように……。



山添 薫
二児の母、趣味はサッカー観戦。戸塚区で生まれ育ち、幼稚園教師時代を経て、結婚後はリトミック研究センター一認定教室「まんまるリトミック教室」を主宰。「戸塚mama」創設メンバー。ホームページ: <https://manmarumusic.crayonsite.info>



※本ページに記載された「さくらプラザオープンデー」に関する詳細は本誌4〜5ページをご覧ください。

誰も真似てはならぬ!?

秘 鈴木啓資の さくらプラザ コンサート企画

案4

ピアニストで指揮者の鈴木啓資さんがさくらプラザで開催するならこんな企画がいい!とアイデアを綴っていく連載コーナー。いつか実現できる日がくるかも!?アーティストの頭の中を覗いてみましょう~!

前回の連載では、コンサートのために曲を書いてもらい世界初演を行うという、「新しい音楽が初めて演奏される瞬間」に焦点を当てたコンサート案について書いた。第4回となる今回は、「音楽が生まれる瞬間」に着目したい。

このコンサートの会場となるのは、さくらプラザのギャラリーだ。さくらプラザには「ギャラリーA」と「ギャラリーB」があり、その2つを繋げて使うことができる。また、可動壁もあり、自由にレイアウトを変更できることが魅力の1つであろう。

まずは音楽以外の面から説明していこう。先に断っておくが、このコンサート案は、これまでの案の中で間違いなく莫大な予算が必要なものである。なぜなら高性能プロジェクターを数多く使用するからだ。さくらプラザのギャラリーの壁面が白色で統一されていることに着目し、壁面に絵を投影する。投影する絵については著名な画家によるものである必要はない。とにかく絵を壁一面に投影することが大切なのだ。

しかし、絵を投影するだけでは単なるデジタルアートになってしまう。そこで音楽の登場である。演奏者は1人でも良いし、少人数のアンサンブルでも良いが複数名いたほうがおもしろそうだ。そして演奏曲目は……「未定」。開演時間も終演時間も決められていない。どういふことか。

実際に聴衆の立場に立って説明してみよう。このコンサートはいつでも入退場できる。照明が落とされたギャラリーに入ると、壁面にはなんらかのデジタルアートが投影される。デジタルアートが投影されると、奏者たちが演奏を開始する。しかし楽譜を見ている様子がない。そして何の曲を演奏しているのか、聴衆にもわからない。それもそのはず。奏者たちは壁面に映し出されたデジタルアートを見て、感じ取ったものを音楽として表現しているからである。言い換えれば即興演奏だ。

デジタルアートを投影し、そのインスピレーションで即興演奏をする今回の企画は、見方によっては「コンサート」ではなく、音楽付きのデジタルアート展と言えるかもしれない。しかし、音楽と絵画は密接に関係のあるものであるし、今回のような「偶然性の音楽」を楽しむ空間があってもよいのではないか。その場で聴くことのできる音楽は、奏者がデジタルアートから受けるインスピレーションを元に演奏しているということから、今回はギャラリーの活用を考えてみた。果たしてこのような企画は実現可能なのだろうか。はたまた妄想の世界で終わってしまうのか……。

人は皆 背中を語る…

見返戸塚人

ミカエリトツカジン

戸塚の魅力あふれる方々をご紹介します。コーナーです。

一吉川さんのお仕事内容や現在の活動内容を教えてください。

イベントの司会やラジオパーソナリティ「警報が鳴りました」といった機器用のアナウンスなど、“声”を使った仕事をしています。内容は多岐にわたりますが、その中でも教材や企業ビデオなどのナレーションの仕事が多いですね。他にも2020年7月にはNPO法人声物園を設立して、たくさんの朗読や読み聞かせ公演を開催しています。コロナ禍で公演ができない時に、24の物語を収録したCD「おはなしパーク」を作成し、多くの小学生に聴かせることができる施設、団体、学校などに寄贈する活動なども行っています。

一声を仕事にしようと考えたきっかけは何ですか?
もともと声を使って何かを表現することに興味があり、日本語学校の教師として勤めていた時に、並行してナレータースクールに通って学んでいました。日本語学校で求められる成果は生徒さんの語学能力の向上ですが、その成果を出すのは基本的に生徒さんの努力であって、必ずしも自分の努力と一致するわけではありません。そこで、今度は自分自身の努力でナレーターとしてどこまで評価を得られるのかを確かめてみたくなった、というのがこの世界に挑戦したきっかけです。

一NPO法人 声物園の活動におけるこだわり、大事にしていることを教えてください。

公演を通じて、より多くの人に物語の魅力を感じてもらえるよう、読み聞かせの手法にはこだわっています。一般的に「読み聞かせ」「朗読」というと、一人で本を読むイメージが強いですが、私たちは物語の役ごとに読み分けをしています。それによって、聞く側はより物語の世界観を掴みやすくなり、キャラクターにも共感しやすくなるので、あえて出演者を多くして実施しています。こうして物語の魅力を感じてもらおうと同時に、多くの言葉を知るきっかけとなり、言葉から想像する楽しさ、読書の魅力も感じていただくと嬉しいです。

一NPO法人 声物園として、今後の夢や目標、やりたいことをお聞かせください。

私たち声物園の掲げる目標は「心豊かな社会づくりに貢献する」です。コロナ禍になってから人と接する機会が減り、他人の考え方に触れる機会も減っています。そのせいで、自分の考えばかりを主張し合う「他人に寛容に成れない」世の中になっている気がします。そこで「本の物語を通して他人とのやりとりを擬似体験できる場を作りたい」と考えたのが声物園設立のきっかけです。私たちの公演を通じて人の考えや悩みを自身に受け入れることで、人に対しても優しく接することができる「心豊かな社会」になってくれると嬉しいです。

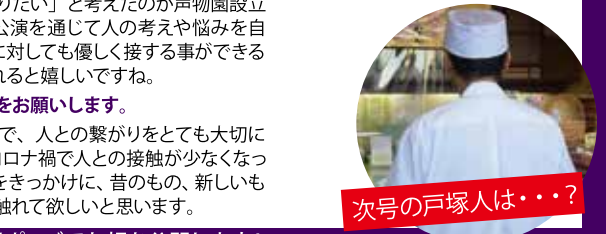
一戸塚の皆様にメッセージをお願いします。
戸塚は歴史と文化がある街で、人との繋がりをとても大切にしている街だと感じています。コロナ禍で人との接触が少なくなっていますが、私たちの活動をきっかけに、昔のものの、新しいもの、たくさんのストーリーに触れて欲しいと思います。



2022年8月に戸塚公会堂で開催された「生きる…明日へのステップ」～朗読劇とダンスを感じるあの日～公演より

NPO法人 声物園
よしかわ まさこ
代表 吉川 雅子さん
今後も戸塚区内でイベントを行う予定なのでぜひ遊びに来てください。

<https://seibutsuen.jp/>
TEL: 090-8490-3332
Mail: info@seibutsuen.jp



この後ろ姿から何処のどなただろうと想像してみてください。次号では見返りポーズで顔を公開します!

次号の戸塚人は……?

さくらプラザコンサートスケジュール

チケットはお電話(045-866-2501)でご予約いただけます。(一部除外あり)
 詳細はチラシをご覧ください。出演者・曲目などは変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
 ※学生券をお買い求めの際は学生証を必ずご提示ください。



さくらプラザ・ホールは右記の日程で天井改修工事を行っています。工事期間：2022年6月1日(水)～2023年2月3日(金)

名曲サロンシリーズ Vol.34
高橋 龍之介 サクソフォンコンサート
 ～サクソフォンとピアノが織りなす名曲～

売御礼

出演：高橋 龍之介(サクソフォン)、柳川 瑞季(ピアノ)

会場：リハーサル室
 11/14(月)
 ①11:30/②14:30 各回休憩なし・約45分
 全席自由 各回1,000円




© Ayane Shindo

らららん♪ドレミシリーズ Vol.19
0歳からのコンサートデビュー♪
 ～ピアノとヴァイオリンと打楽器で贈るクリスマスコンサート～

好評発売中

出演：平林 由衣(ピアノ)、岸井 晶子(ヴァイオリン)、岡田 直樹(打楽器)

会場：リハーサル室
 12/16(金)
 ①10:30/②11:45 各回休憩なし・約30分
 全席自由 各回500円 ※0歳から有料。

春の芸術祭2023関連事業
 名曲サロンシリーズ Vol.35 **ホール特別公演**
古楽を愉しむ～天正遣欧少年使節の聴いた南蛮音楽～

出演：中山 美紀(ソプラ)、新田 壮人(カウンターテナー)、
 上羽 剛史(チェンバロ)、濱田 芳通(リコーダー)

会場：ホール
 2023/2/18(土) 14:00 休憩あり・約90分
 全席指定 一般2,500円/横浜市民2,000円/学生1,000円






チケット さくらプラザ先行電話予約
 11/19(土)14:00～
 *11/20(日)9:00～窓口引取り開始

コンセール・アミティエ
第48回 音楽サロン plus
 ～心で聴き、心で歌う～

残席僅少

出演：吉府 充希子(ソプラ)、殿岡 芽依(ファゴット)、北村 真紀子(ピアノ)

会場：リハーサル室
 11/22(火) ①10:45/②14:15
 全席自由 各回1,000円







©山口 直世 (Studio:Divas)

*さくらプラザでは窓口販売のみ取扱い
 ※第49回は2023年1月に開催予定です。

共催 **木村大×小松亮太**
 二人のヴィルトゥオーゾが織りなす情熱と哀愁の競演

出演：木村 大(ギター)、小松 亮太(バンドネオン)

会場：ホール
 2023/2/12(日)14:00
 全席指定 一般4,300円/
 横浜市民チケット3,500円/
 学生券1,000円


チケット さくらプラザ窓口販売
 12/10(土)9:00～

*さくらプラザでは窓口販売のみ取扱い *1F席から販売

共催 戸塚区演奏家協会による
ホット&ハートフル サロンコンサート
 ～映画の中の音楽～

出演：戸塚区演奏家協会メンバー
 (ピアノ/ソロ、オーボエ、声楽)

会場：リハーサル室
 2023/2/26(日)14:00開演
 全席自由 1,500円



チケット さくらプラザ窓口販売
 12/20(火)9:00～

*さくらプラザでは窓口販売のみ取扱い

共催 コンセール・アミティエ
第50回 音楽サロン plus
 ～心で聴き、心で歌う～ 50回記念 Special

出演：吉府 充希子(ソプラ)、
 高木 凛々子(ヴァイオリン)、
 横山 美里(ピアノ)

会場：ホール
 2023/3/28(火)14:00
 全席指定 一般2,000円/
 高校生以下1,000円





©山口 直世 (Studio:Divas) ©山口 直世 (Studio:Divas)

チケット さくらプラザ窓口販売
 1/7(土)9:00～




*静かに聴ける5歳以上のお子様
 *さくらプラザでは窓口販売のみ取扱い

参加無料 **こどものための芸術の学校**
ダンス&ボディーパーカッションワークショップ

講師 萩原 広充(ドラマー・パーカッション)、佐藤 深雪(ダンサー・コレオグラファー)

会場：リハーサル室
 12/26(月)、27(火) 各日13:30～16:30
 対象：小学4年生から18歳くらいまで

申込方法：
 申込用紙にご記入の上、ファクス、郵送、来館のいずれかでお申込ください。

↑申込用紙はHPから

春の芸術祭

さくらプラザ利用団体・アーティスト・区民…アートに溺れる 3日間

2023年
 3/10(金)【ギャラリ-のみ】13:00～17:00
 3/11(土)【ギャラリ-】10:00～17:00【マルシェ】11:00～14:00
 3/12(日)【ホール】14:00～16:00【ギャラリ-】10:00～16:00
 【マルシェ】11:00～14:00 ほか

※詳細は2023年1月初旬公開予定です。

編集後記
 今号では「名曲サロンシリーズ」にご出演いただく高橋様のインタビューや、「さくらプラザ オープンデー」のレポートなど、賑やかな話題をお届けしています!だんだんと寒さも厳しくなっていますが、ぜひ さくらプラザで音楽や、自分の好きな芸術文化にふれて、心をホットと温めてくださいね♪(小野)

戸塚区民文化センター さくらプラザ

TEL: 045-866-2501 FAX: 045-866-2502

〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町16-17戸塚区総合庁舎 4F

event@totsuka.hall-info.jp

https://totsuka.hall-info.jp

さくらプラザ 検索

※通信料が発生します。
 ※新型コロナウイルスの感染拡大状況によって公演内容の変更、または中止になる場合がございます。

SAKURA さくら Vol.57 11・12月号